

79年秋冬ワンスドレスの色と型について

東京家政大家政 木曾山 か収
東京家政学院短大 今井 珠生

愛知三河繊維技術 〇志満津瑛司

目的 意匠、色彩グループは、被服の製作にあたって、色彩傾向の立場から、必要なニーズ、種々の要件、要素の実態をつかみ被服構成の関係を調査、解明し、被服製作の基礎資料とする。

方法 Ⅰ). 調査対象 ①母集団、都内あるいは近隣都市より通学する98名、年齢(18~19才)東京家政学院短大学生 ②素材購入時期、1979年10月、③購入目的、被服構成詳裁実習、ワンスドレス製作用、Ⅱ). 検討項目 被服構成、詳裁実習に際し、被服者学生が着用するワンスドレスを製作するため、嗜好素材を購入、実習製作した作品を試料として下記事項について調査検討した。①選択素材生地の種類 ②自記日立分先先度計にて測色分析し色相三属性と79年流行色との関係について、③被服者の選んだ実習作品の袴ぐり、袖、スカート構成と色相の関係について、

結果 Ⅰ). 学生の選んだ1979年秋冬ものワンスドレス色相傾向は、N系、B系、RP系が主体であり、既被服流行色相と異なる。又素材生地の約80%は羊毛繊維であった。Ⅱ). ①ワンスドレスの袴構成は、色相に関係なく、ラウンド型、V型が多いが、R系色相はV型>ラウンド型である。②袖については色相に関係なく、タイト型が主体であり、パフ型は全体の1/3より少ない。③スカート型は色相により下記の通り大別された。④、N系、YR系、Y系はインパテット型が多い。⑤ PR系はタイト、ギャザー型が主体。⑥ PB系はインパテット型が主体であるも特殊型のソフトフリース型も見受けられた。